

令和7年度 小平市立小平第五中学校 学校評価報告書

学校教育目標

| | |
|---------------------|--|
| 目指す学校像(ビジョン) | |
| 【目指す学校像】 | ○ 生徒にとって楽しく安心して過ごせる「居場所」であり、自立に向け社会性を身に付ける「学びの場」である学校 |
| 【目指す児童・生徒像】 | ○ 規律を守りつつ自他を尊重し、社会に貢献できる生徒 ○ 自ら学び、よく考え、正しい判断ができる生徒 「チーム五中」 ○ 生徒一人一人を大切にし、生徒の良さや個性を伸長する教職員 |
| 【目指す教員像】 | ○ 教師同士が互いを認め、信頼し、協力できる教職員 ○ 常に自らを振り返り、日々研鑽に努め、切磋琢磨できる教職員 ○ 地域や保護者と積極的に関わり、信頼に応える教職員 |

前年度までの学校経営上の成果と課題

| | 具体的方策 | 第1回評価 | | 指標に基づく成果・課題・対策 | 第2回評価 | | 学校関係者評価 | 指標に基づく成果・課題・次年度以降の対策 |
|-------------|--|-------|------|---|-------|------|---|--|
| | | 取組指標 | 成果指標 | | 取組指標 | 成果指標 | | |
| 学力向上 | ・授業毎のねらいの明示 ・単元ごとの授業内容の振り返り | 4 | 3 | 校内研究において授業づくりや指導の工夫について学び合い、授業の振り返りを行う意識を育んだ。管理職からは授業観察においてめあてと振り返りの提示徹底について指導した。教員が授業評価の分析やを教員が個々に行うことで授業改善につなげた。 | 4 | 3 | ・どの生徒にも分かりやすい授業を今後も目指していってほしい。 ・ICTの活用については、効果的な使い方を研究していただけたとよい。 ・AIDリルについては、令和8年度に切り替えるとのことなので、家庭学習での活用を促してほしい。 ・テスト勉強と関連付けられるとよいのではないかとも思う。 ・放課後教室をうまく活用し、学力向上を目指していけるとよい。 | ・引き続き、授業観察を行い、ねらいと振り返りを明確にした授業を徹底させる。 ・令和8年度も教科の研究授業を実施し、各学年が研究を通して授業改善に取り組むようにする。 |
| | ・場面に応じた授業支援ソフトの活用 ・AIDリルの家庭学習等での活用 | 3 | 3 | 校内研修会にて授業支援ソフトの活用方法について学び、校内研究の授業でも取り入れた。AIDリルの活用については年度はじめの保護者会で行い、リーフレットを配布するとともに、教員にも活用を促した。 | 3 | 3 | ・動画を取り入れた副教材を新規導入し、活用方法について、工夫・改善するとともに、保護者会にて家庭での活用について説明し促す。 ・動画を取り入れた副教材が家庭学習で活用できるよう、資料を配布し授業での声掛けをしていく。 | |
| 健全育成（いじめ防止） | ・こだいら特別活動の日に立てた目標達成に向けた全校取組 ・特別活動を要とした、生徒が考え、工夫し、取り組む学校行事の推進 | 4 | 4 | 五中校区で立てた行動目標に沿って活動し、五中校区独自の児童会・生徒会サミットで取組を共有した。運動会や合唱コンクールで各学級から選出した実行委員が中心となって準備を進め、生徒主体の行事となった。 | 4 | 4 | ・「児童会・生徒会サミット→五中校区サミットの流れ」を意識して、校区の小学校と連携した取組を進める。特別活動を中心として、生徒の主体的な活動を目指した取組を一層充実させる。 | |
| | ・生徒が教員等に相談しやすい関係づくり ・全学年で発達段階に応じた外部講師による「性教育の授業」の実施 ・いじめ調査による実態把握と対応 | 4 | 3 | 学年教員の誰にでも相談できる体制を教員と共通理解し、生徒保護者に伝えた。全学年で性教育の授業を実施し、学年の発達段階に応じた性に関する指導を行った。いじめ調査、対応、見守りを組織的に行った。 | 4 | 3 | ・「いのちの授業」については引き続き、保護者の認知度が上がるよう、アピールを続けていってほしい。 ・学校行事は生徒主体になっている。 | |
| 特別支援教育の推進 | 「合理的配慮が進んだか」「支援を要する生徒に具体的な対応ができたか」についての教員アンケート | 4 | 4 | 年度当初の職員会議をはじめ、毎週開催する校内委員会にて個別の配慮が必要な生徒への具体的な配慮について共有するとともに、多様性、特別支援等への理解を深め、対応に生かした。教員アンケートの結果は肯定的な回答が約81%であった。 | 4 | 4 | ・校内委員会がコーディネーターの先生により情報共有や対応検討の場として機能していることが伝わってくる。引き続き進めていっていただきたい。 ・教職員の理解が大切だと思う。移動してきた先生にも共通理解を図ってほしい。 | ・校内委員会を中心として、合理的配慮や支援を必要としている生徒の対応状況を常時把握し、教職員の共通理解と、生徒や家庭が支援を実感できる対応を進める。 |
| | 障害理解教育推進授業の実施(第1学年) 通常級の教員が特別支援学級の給食に参加する、給食交流の実施 | 3 | 4 | 特別支援学級理解教育授業を各学年にて実施した。通常級の教員が、特別支援学級の給食に参加する、給食交流を実施した。 | 3 | 4 | ・給食交流を通年で実施し、教職員の特別支援学級及び特別支援学級の生徒への理解を深める。 ・令和8年度も継続して特別支援学級理解教育授業を各学年で実施する。 | |
| 業務改善・働き方改革 | ・校務分掌ごとの年間計画の確認 ・優先度の低い業務の洗い出し ・担当業務の割り振り状況確認と実態に合わせた再検討 | 3 | 3 | 校務分掌ごとに年間の業務の見直しをもち、各主任が進捗を確認しながら業務に取り組んだ。業務の割り振りや優先度の低い業務の洗い出しについて、学校評価を通じて進めた。新年度へ向けて主任層がマネジメントを行う意識をもつよう、会議で繰り返し伝えた。 | 3 | 3 | ・ICTの活用については引き続き進めてほしい。 ・教員の出入りがある中で、今後続けていくことができる形の業務にしていける必要がある。 ・お便り等のスクールメールの配信が増えたので情報が伝わりやすくなっていると感じる。 | ・教職員との対話を通じて、各教員の資質・能力を引き出せる校務分掌の配置を行う。 ・学校評価や学校行事ごとの反省を踏まえ、確実な引き継ぎ及び業務改善や臨機応変な業務割り振りを行う。 |
| | ・ICTを活用した連絡事項伝達や打ち合わせ時間の削減 ・家庭連絡や欠席連絡、校内連絡のICT化 | 3 | 3 | 管理職や教職員からの連絡を校務支援システムでの連絡に切り替え、口頭での連絡は重要な連絡のみに絞ることで、朝の打ち合わせや業務連絡の時間の削減を行った。家庭連絡や欠席連絡にメール配信システムを活用した。 | 3 | 3 | ・引き続き、ICTを活用した情報共有を行う。 ・家庭との連絡について、効率化する部分と直接、丁寧にやり取りする部分を見極めながら業務削減を行う。 | |